

七月下旬紀伊水道にて捕獲された魚の種類

難 波 庄 作

兵庫縣第一神戸中學校

昭和五年七月二十三日から同二十八日まで、雑賀崎に於いて神戸一中の市川幸兵衛氏と共に表記の魚の聚集をした。短期間に比較的多くの聚集が出来たので、魚の種類と、又その聚集の状況とを記して御参考に供する。

雑賀崎は紀州和歌浦の西約一里に在る漁村で、紀西に於ける釣漁の中心地であり、又此地の漁夫の釣に付いての技倆と其波濤を蹴つて遠方へ出漁する大膽さとは到底他の追従を許さないさうで——此は漁業組合長橋本軀之介氏の話であるが、同組合は全國に優秀な廉で表彰されたことも數回あるさうである。同行の市川氏が此附近の出身である關係上橋本氏が私達の聚集に大層助力を與へられ、毎朝漁船が齎らした活魚を組合の手で競賣する時、それ等の魚を點檢して必要なものは任意に撰び採ることが出来、又その魚が何處で捕獲されたとか、漁獲の状況等に至るまで橋本氏の説明に依つて知ることが出来非常に好都合であつた。

豫め橋本氏に交渉して私達の滞在中使用すべき漁船一艘と漁夫一名を契約して置いて貰つた。そして七月二十二日に此地へ來てみると約の如く凡ての準備がしてある。漁夫は通稱豊さんと言つて組合の使用人で且老練家であつた爲め益々都合がよかつた。それでその翌日から早速仕事に取り掛かることが出来たのである。

七月二十三日朝五時に起きて濱邊へ行つてみると、沖の方から漁船が幾艘も活槽を曳いて歸つて來る。着岸すると順次に活槽を引き揚げ、槽の口を開いたまま競賣に付する勿論組合が一手に引き受けてゐるので上記の豊さんもその集人の一人である。競賣のすんだ魚は他の容器に移して濱邊に並べられ、それが次第に和歌山大阪方面へ搬出されて行く。私達はその間を巡覽して手頃な大きさのものを撰び取り豊さんをして宿所の方へ運ばせた。

斯様にして二十三日から二十八日朝までに聚集した種類は次の通りで、この期間此地に集められた魚は全部網羅してゐる積りである。漁獲地は東は日ノ岬、西は室戸岬までの範圍である。尚ほ茲に特記すべきことは集る魚が全部活魚であつて死魚は一つもない。この點は魚の色彩を識るのに絶好であることと、又橋本氏の説明に依つて捕獲場所が確實であることとである。

ヘダヒ *Sparus aries*

オホメダヒ (土名メイチ) *Gimnocranius griceus*

この二種は今は最も美味な時期である。従つて價もマダヒと變らぬ。

アカハタ (土名アカッポ) *Epinephelus tsirimenara*

マアヂ *Trachurus japonicus*

ムロアヂ *Decapterus muroadsi*

以上5種は量に於いて最も多い。殊にアヂはその大部分を占め、新鮮なため生食すれば味が大層よろしい。是等に次いで

イヤゴハタ *Epinephelus poecilonotus*

アカマツカサ *Myripristis murdjan*

イトウダヒ (土名コンベントウ) *Holocentrus spinosissimus*

ホウボウ (土名ホンボ) *Chelidonichthys kumu*

カナガシラ (土名カナンド) *Lepidotrigla abyssalis*

以上可成澤山に集まつて来る。其外雜魚として

アキゴ仔魚 (土名バレコウ) *Siganus fuscescens*

オハグロベラ (土名ゴマンジャウ、イヤシベラ、エタベラ等)

Duymaeria flagellifera

アラブダヒ (土名インコ) *Calliodon ovifrons*

カゴカキダヒ (土名ウンボロベン) *Microcanthus strigatus*

テンス (土名テス) *Iniistius dea*

ムスメベラ *Zulis musume*

ミノカサゴ *Pteroides lunulata*

オホモンハタ *Epinephelus craspedurus*

ヨコスチフエダヒ *Lutianus vitta*

マハタ *Epinephelus septemfasciatus*

モンガラカハハギ *Balistes niger*

カサゴ (土名ガシラ) *Sebastiseus marmoratus*

イシダヒ *Oplegnathus fasciatus*

ネコザメ *Heterodontus japonicus*

アミモンガラ *Canthidermis rotundatus*

アイナメ *Hexagrammus otakii*

ミシマヲコゼ *Uranoscopus japonicus*

イシガキダヒ *Oplegnathus punctatus*

シマエソ (土名アマエソ) *Trachinocephalus myops*

クラカケギス *Neopercis sexfasciata*

スズメダヒ (土名オセンゴロシ) *Chromis notatus*

ヒメジ *Pseudupeneus benisasi* ?

- オキヒイラギ *Leiognathus rivulatum*
 ウミウマ *Hippocampus coronatus*
 ネンブツダヒ *Apogon semilineatus*
 マダヒ仔魚 *Pagrosomus major*
 クマノミ *Amphiprion japonicus*
 シロザメ *Cynias griseus*
 ウツボ *Gimnothorax kidako*
 ササノハベラ (土名ミッチャベラ) *Pseudolabrus japonicus*
 サウダガツヲ (土名カツヲ) *Auxis thazard*
 セトベラ (土名キンベラ) *Halichoeres tremebundus*
 ウマヅラハギ *Cantherines modestus*
 トラフグ *Spheroides rubripes*
 ウミヒゴヒ *Pseudupeneus chrysopleuron*
 ギンカガミ *Mene maculata*
 カハビシヤ *Histiogaster typus*
 キウセン *Halichoeres poecilopterus*
 フニヲコゼ *Inimicus japonicus*
 ダツ *Tylosurus anastomella*
 ミギマキ *Goniistius zebra*
 ゲンロクダヒ *Coradion modestum*
 コセウダヒ *Plectorhynchus cinctus*

以上魚名は大部分は田中氏の著書及び同氏の鑑定せられて私の手許に在る標品に據つたのであるが、中には私の記憶によつたのもあるから學名などに至つては現在専門家には使用されてゐないものや全體として不統一なものがありはせぬかと考へられるが、左様なものは推斷せられんことを望む。土名は豊さんに聞いたのであるが不得要領が多いためその一部だけを附記したに過ぎぬ。

期間中に磯狩や底曳網を使つて獲たものの中には尙この外に

- ナベカ *Petroscirtes elegans*
 キノバル *Pterogobius daimio*
 テカミ (土名カブリハゼ) *Cryptocentrus filifer*
 ゴンズキ仔魚 *Plotosus anguillaris*
 ハヲコゼ *Paracentropogon rubripinnis*
 ウシノシタ仔魚 *Rhinoplagusia*
 メイタガレヒ仔魚 *Pleuronichthys cornutus*

(附記)

雑賀崎の水産教師五島氏の聚集に係る魚類を見しに尙、次の種類があつた。
但し聚集時季は必ずしも前掲のものと同一ではない。

- ツノカナガシラ *Peristedion orientale*
 イネゴチ *Thysanophrys crocodilus*
 セミホウボウ *Dactyloplena orientalis*
 アンコウ *Lophiomus setigerus*
 ムロキホウボウ *Peristedion*
 ワウモンキザリウヲ *Antennarius lateralis*
 ウミスズメ *Ostracion*
 ハタタテ *Heniochus diphrentes*
 アカタチ *Acanthocephala krusensterni*
 マトダヒ *Zeus japonicus*
 ヒシダヒ *Antigonii rubescens*
 ハリセンボン *Diodon holacanthus*
 コバシイタダキ *Leptecheneis*

蛇の鱗式異常について

美 濃 部 熙

東京帝國大學農學部動物學教室

緒言 鱗式は蛇類の分類で重要な特徴の一つとしてある。それでそれぞれの種について一定なるべき筈であるが屢々その異常が見られる。此處に筆者が鱗式異常を日本内地産五種について觀察した所を述べて見ることにする。各種について數多くの個體を觀察したのであるが、統計的のことは止めてどういふ異常形があつたかといふことと、その異常の原因とについて此處に書いて見よう。

記載 ヤマカガシ *Natrix tigrina* BOIE

鱗式 體鱗列 19, 眼鱗 2+3 (眼前鱗 2, 眼後鱗 3 の意; 以下準之), 顙顙鱗 1+2 (前列 1, 後列 2 の意; 以下準之), 上唇鱗 7

- (1) 眼鱗異常の例 2+2, 2+4, 1+3, 3+3
- (2) 顙顙鱗異常の例 1+1, 1+3, 2+2
- (3) 上唇鱗異常の例 6

ヒバカリ *Natrix vilakari* BOIE